

1 記念館の利用の承認等に関する業務

● 来館者数の動向

第1四半期の来館者数は、展示事業、上映事業ともに開館以来の同期比で3番目に少なく、総来館者数は開館以来の同期比で2番目に少なかった。4月、5月の来館者が少なかったことが影響しており、6月の来館者数は増加傾向にあった。

2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務

● 施設・設備の維持管理

・通常の設備保守・点検等が適切に実施されている。
・館内環境について適宜報告があり、記念館の環境維持に配慮した施設管理を実施している。

● 資料等の維持管理

・施設の特性を考慮しつつ、適正な維持管理が行われている。

3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務

● 上映及び展示

・事業計画どおり、特別展や上映事業を実施している。
・展示事業では、「鎌倉映画地図」を前年度3月から継続して開催しており、鎌倉を舞台にした映画や鎌倉の映画人について見識を深める機会を提供した。
・上映事業では、企画展に関連した邦画作品と、ゴールデンウィーク中に『GWシネマ・セレクション』と銘打ち洋画作品の上映により、バラエティに富んだ作品を鑑賞できる機会を提供した。

● 調査、研究及び情報提供

・7月以降に開催する展示事業等に係る調査及び研究を実施した。
・映画関連資料の調査及び研究とともに、国立フィルムセンターとの情報交換等を行い、最新の映画関連情報の収集に努めた。
・情報資料室において映画資料や関連図書等の情報提供を行った。また、映画上映時に配布している各作品の概要をまとめたリーフレットを綴じたものを配架し、誰でも手に取って見られるようにした。
・鎌倉と映画に関する調査研究により冊子『鎌倉映画地図』を作成し、映画関連施設への情報提供を行った。
・特に学生などの学習に活用してもらえよう、映像玩具体験コーナーにフィルムの動きを体験できる「覗き見フィルムボックス」を新たに設置した。

● 広報及び宣伝等

・市広報に展示事業や上映事業などの情報を掲載している。さらに、庁舎内のモニターによる広告も利用し、より多くの市民等へ展示事業等の周知を行った。
・チラシの配架及びポスターの掲示等により記念館の広報及び宣伝等に努めた。
・6月に開催された校長会において、夏休みの子供向け事業についての周知を行った。

● その他の事業

・講演会については、特別展と関連して、中井貴恵さんが鎌倉ゆかりの映画人である父親、佐田啓二氏についてトークを行い、満員盛況となった。また、鎌倉シネサロンとして、鎌倉アカデミアの足跡を追ったドキュメンタリー映画の上映並びに監督等をゲストに招いたトークイベントを開催し、チケットは完売、好評を得た。

4 その他市長が定める業務等

● 事務処理

・例月の指定管理業務報告書等は期日までに提出されている。
4月分:5月11日、5月分:6月14日、6月分:7月14日提出

● 事故・苦情対応

・事故・苦情はなし。

● その他

・4月に春の施設公開として、旧和辻邸の一般公開を行った。
・ブックカーニバルinカマクラ2017との連動企画として、イベントチラシを持参した来館者にポスターカードをプレゼントし、来館促進に努めた。
・紫陽花の咲く6月に、来館者を対象に「季節の庭園公開」を行った。庭園という魅力を有効活用し、記念館のアピールに努めた。
・特別展に関連して、『鎌倉映画地図』散策ツアーを開催した。ゲストに特別展及び冊子『鎌倉映画地図』に全面協力していただいた宮崎祐治氏を招き、雪ノ下周辺の映画撮影スポットを散策するもので、好評であった。

5 全体評価

・第1四半期の来館者数は、展示事業、上映事業ともに開館以来の同期比で3番目に少なく、総来館者数は2番目に少なかった。好調であった平成28年度、平成27年度と比べて大幅な減少となった。

・今回は、鎌倉を舞台とした映画や映画人を紹介する展示、上映に加えて、冊子『鎌倉映画地図』を編集し、販売するなど、鎌倉の魅力を全面に押し出した。展示の手法として初めて展示室にモニターを設置し、人気映画「海街diary」の予告編を流した他、作中で使用された浴衣を展示するなど、ファンの心を掴みリピーターも少なからずいたが、来館者数は伸び悩んだ。新たな視点で展示企画を行ったため、広報・宣伝が思うように至らなかったことも要因として考えられる。鎌倉を訪れる観光客が増える紫陽花の時期には、初めて「季節の庭園公開」を行い、来館者に庭園を開放した。庭園という魅力を有効活用し、展示事業の周知にも繋げ、集客に努めている点は評価に値する。今回の庭園公開は3日間のみであったが、庭園公開に伴い展示の来館者が増加したことから、一定の効果はあったものと判断できる。また、展示事業に関連して、鎌倉の映画撮影スポットを巡る散策ツアーを開催したところ、申し込み多数の人気イベントとなった。今後も展示事業と関連付けたイベント等の開催により、記念館のアピールを積極的に行い、来館者の確保及び来館者の満足度向上に努められたい。

・施設の維持管理などの業務に関しては、細やかな報告が徹底されており、施設管理者に対して市が求める水準に達している。

平成29年度第1四半期判定評価表

【川喜多映画記念館】

評価項目	判定点	第1四半期 評価結果	減点
1 利用の承認等に関する業務			
来館者数の動向			
入館者数が前指定期間の同四半期の平均値と比較して80%以上の水準にあるか(不可抗力を原因とするものを除く)	5	○	
2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務			
施設・設備の維持管理			
定められた点検が実施されているか	5	○	
不具合箇所を放置せず、必要に応じて修繕を実施しているか	5	○	
庭園、進入路などの手入れはきちんとされているか	5	○	
資料等の維持管理			
資料等の維持管理は適切に実施されているか	5	○	
3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務			
上映及び展示			
計画どおりに企画展が開催されているか	5	○	
予定どおり映画上映が実施されているか	5	○	
調査、研究及び情報提供			
映画関連資料等の調査・研究を行っているか	3	○	
研究の成果を公開しているか	3	○	
その他必要な業務			
展示・上映以外の事業は適正に実施されているか	5	○	
来館者ニーズの把握・反映につとめているか	5	○	
4 その他市長が定める業務等			
事務処理			
決められた期日までに報告書は提出されているか	5	○	
市との連絡調整はきちんとされているか	5	○	
市と協議を行った事項は確実に実施されているか	5	○	
固有の銀行口座で適正な会計処理を行っているか	10	○	
苦情対応			
来館者や近隣との間のトラブルに適正な対処をしているか	5	○	
苦情・要望への迅速な処理、市への報告はされているか	5	○	
その他			
研修等自己啓発の努力がされているか	3	○	
災害時の対応ができるよう、準備はされているか	3	○	
個人情報適切に管理されているか	10	○	
減点の計			0

実施されている場合・・・○ 実施されていない場合・・・×

減額率

減点の合計	減額率
10～15	5%
16～20	10%
21～	20%